

## 平成18年度「専修学校を活用した職業意識の啓発推進」成果報告書

事業名	モバイル・組み込み技術分野における職業体験講座		
法人名	学校法人日本コンピュータ学園		
学校名	東北電子専門学校		
代表者	理事長 持丸 寛一郎	担当者 連絡先	橋本 康男 TEL022-224-6501(代)
<p><b>1. 事業の概要</b></p> <p>ユビキタス時代を迎え、モバイル系のコンテンツおよび組み込み技術の必要性が高まっているが、その人材は不足している。この分野で先進的に技術開発、マーケティングを先導してきた業界トップの職業人から、仕事に対する喜びや達成感、苦労話を若年者に伝えて職業意識を高めるとともに、実際の開発を体験する事で、その分野の職業への親近感を高める事を目的とし、職業人による講演と本校教員による体験学習を実施した。</p> <p><b>2. 事業の評価に関する項目</b></p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>上記事業を実施するにあたり、若年者の中でも将来の職業を真剣に考え始める高校生を主な対象と考え、高校生にとって身近にあるものの開発に携わっている方による講演を考えた。高校生の普段の生活に身近にあるものという観点から「携帯電話」と「Suica」を講演のテーマ、キーワードに選んだ。そこで、第1回目の講演では、JR東日本で使用されている「Suica」の開発に携わった方を、第2回目の講演では、携帯電話のKDDI/auの戦略イメージとして「音楽のau」を印象付けるために、「FMチューナー付き携帯電話」の開発に携わった方に講演を行なっていただいた。規模としては、講演の内容や体験学習の趣旨を正確に伝えるという目的を果たす為、1回あたり50名を想定して企画した。参加人数は、第1回目は29名が参加、第2回目は合計21名の参加があった。高校生からの反応は、特に身近にあるものについて普段では知りえない内容であったため、大変興味をひかせながら、職業に対する意識を高めることに充分役立ったと考える。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>若年者の職業意識は、本人の生活環境や習慣などにより、形成されることが多いと言える。そこでは、広い見識の中から自分に適する職業を絞っているわけではなく、既成の認識の中から職業に関するイメージを決めてしまっている。今回の事業を通し、若年者特に高校生に対し、これまで認識していなかった分野にも興味深い職業があることを普及することができた。さらに、モバイル・組み込み技術分野における職業は、若年者には分かりにくい分野であったが、身近なものの開発に携わる職業人の存在を知り、仕事の面白味を聞いたことで、この分野における職業への関心も高まったと言える。現代日本の経済を支えるモバイル・組み込み技術分野の職業に関心を示す若年者を増やすという目的を果たせ、将来の日本を支える若年者の育成に寄与できたと考える。</p> <p>③今後の活用</p> <p>高校教員からは、高校生の進路指導特に将来のビジョン作りや、将来の就職への意識付けに特に役立つと好評を得たことから、若年者のなかでも将来設計を具体的に検討し始める高校生に対して、力を入れて取り組みたい。この件については、高校の進路指導計画と綿密な調整を図りながら、検討していくことで実現に結び付けたい。既に、ある高校からは具体的に検討したいとの申し出もあり、次年度に向けての取り組みにも着手したいと考えている。</p>			

#### ④次年度以降における課題・展開

職業人による講演会では、講演者が若年者への講演に慣れていない場合が多く、受講者の属性を考慮した講演になるよう事前に綿密な打合せが必要である。次回では、講演内容を若年者へより伝えやすくする工夫が必要である。さらに、高校側からは自校内での実施の要望が多かったことから、高校等を会場として開催することも検討したい。

### 3. 事業の実施に関する項目

#### ①職業体験講座、講演会の実施

第1回「Suica開発秘話」と職業体験講座 平成18年12月16日(土)実施

ジェイアール東日本メカトロニクス株式会社常務取締役技師長の佐藤正信氏に、日常生活で電車を利用する際に使用している「Suica」の開発の苦労話や達成感などの講演をいただいた。参加者にとっては普段手にしているカードだけに、関心を強く引き出した。また、体験講座は、「Suica」の講演に沿う内容として、「パソコンを動かすアプリケーション開発体験」、「マイクロコンピュータの制御プログラム体験」、「インターネット社会の基本・ネットワークの構築体験」の3講座を実施し、プログラムやネットワーク作りを体験させた。

第2回「着メロ開発・マーケティング秘話」と職業体験講座 平成19年1月20日(土)実施

株式会社エーピーコミュニケーションズ常務取締役中村真二氏に、携帯電話のKDDI/auの戦略イメージとして「FMチューナー付き携帯電話」の開発・マーケティングに携わった体験談、裏話などの講演をいただいた。また、その開発の成果として賞を受けたことなどは、高校生にとって大変印象深く、苦労はあっても自分もそのような仕事をしたい、という積極的な意見が多く聞かれた。また、体験講座は「FMチューナー付き携帯電話の開発」の講演に沿う内容として、「コンピュータを使ったミュージック制作体験」、「待ち受け画面制作体験」、「ゲームソフトの制作体験」の3講座を実施し、コンテンツ作りを体験させた。

第1回目の講座には29名の参加があり、第2回目の講座には21名の参加があった。受講後のアンケートによると、「講演を聞いて将来の職業に関して感じたことは？」との質問に、「就職すると大変なこともあるが努力により喜びも感じられることが分かった」と答えたものが33%、「自分も就職しやりがいを見つけ、社会のためになる仕事がしたいと思った」と答えた者が43%と、職業に対する意識を充分高めることができたと考えられる。また、体験講座に関しては各回3講座を用意し、本事業に関連する範囲で若年者の関心あるテーマで実施した。その感想として、「難しいけれど面白い、楽しい」、「やりがいと感じた」、「奥が深い」など仕事への実感を持ってもらえたと考えられる。

#### ②その他

若年者の中でも将来の進路を具体的に考え始める高校生を対象としたことから、高校教員と情報交換を行ないながら、高校での進路指導の計画の中で、最もふさわしい時期を設定した。特に高校2年生に関しては、12月から1月にかけて様々な職業の情報を集め、3年生の春には自分の進路を絞り込むことになることから、若年者の指導にあたる高校と専門学校双方において、協力体制を取りながら実施することができた。この事業の目的を果たすためには、若年者の教育に携わる教育機関が連携しながら取り組むことで、さらなる相乗効果が期待できると考えている。